

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 3日現在

機関番号：11401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520040

研究課題名（和文）

春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究

研究課題名（英文） A study on Chun qiu Zuo shi Jing's extraction and edition from the original text of Chun qiu zuo shi Zhuan and its mechanism of the production of Jing

研究代表者

吉永 慎二郎（YOSHINAGA SHINJIRO）

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号：70240330

研究成果の概要（和文）：

吉永の本研究は、春秋経は春秋左氏経が原型で（公羊経や穀梁経はこれより派生）、その「春秋左氏経」は、解経と凡例等以外の史伝文として今本左伝に残存する「原左氏伝」テキストから、抽出・編作の手法に拠り成立したものであるとの仮説を提示する。この仮説では全春秋左氏経文は、①抽出文、②抽出的編作文、③編作文、④無伝の経文という四種類型文に分類し得る。隠公～文公期の全経文の分析では抽出系即ち①抽出文（23.9%）と②抽出的編作文（25.9%）とが約49.8%、編作系即ち③編作文（17.7%）と④無伝の経文（32.5%）とが50.2%との結果となった。この結果は吉永の仮説を傍証するものと言える。またこの「原左氏伝」と「春秋左氏経」との関係は、『資治通鑑』と『資治通鑑綱目』との関係に比定し得ることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This study by Yoshinaga has presented the hypothesis that the original text of Chun qiu Jing was Chun qiu Zuo shi Jing, and the text of Chun qiu Zuo shi Jing was made from the original text of Chun qiu Zuo shi Zhuan by the method of extraction and edition from the original text of Chun qiu Zuo shi Zhuan which is fundamentally included in the present text of Chun qiu Zuo shi Zhuan except the part of the explanation and introductory notes on the text of Jing. According to this hypothesis we can analyze all sentences of Chun qiu Zuo shi Jing to the four types of sentence: 1 the type of sentences extracted from the original text of Zuo shi Zhuan, 2 the type of sentences extractive edited from that, 3 the type of edited sentences, 4 the type of sentences without corresponding to the text of Zuo shi Zhuan. Analyzing the all sentences of Chun qiu Zuos shi Jing at the period from Yin gong till Wen gong, the extraction system [type1 is 23.9 percent and type2 is 25.9percent] accounts for 49.8 percentage, the edition system [type3 is 17.7percent and type4 is 32.5percent] accounts for 50.2 percentage. This result is able to be enough to prove my hypothesis. Furthermore this study made clear the relationship of the original text of Chun qiu Zuo shi Zhuan and the text of Chun qiu Zuo shi Jing is able to be compared with that of Zi zhi Tong jian and Zi zhi Tong jian Gang mu.

交付決定額.

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：中国哲学

キーワード：原左氏伝からの春秋経の成立、抽出文、抽出的編作文、編作文、無伝の経文

### 1. 研究開始当初の背景

魯の春秋が孔子の筆削によって春秋経として成立し、春秋左氏伝はその春秋経の伝（注釈）の一つとして位置づけられるとの経学的見解は未だにその影響を維持している。しかし、文献実証的には孟子の言説との矛盾を指摘され、また近代の暦学研究によって春秋経が一国の暦法には到底収まらず複数の暦法を内在させる史料で、魯の春秋が春秋経になったとの見解は成立しがたいことを明らかにしている。本研究は、この状況を踏まえて春秋経は左氏経が原型で、その左氏経は今本左伝テキストの解経文や凡例文以外の史伝文として残存する原左氏伝テキストから左氏経が抽出・編作の手法に拠り制作され、その左氏経の哀公十四年の「西狩獲麟」以降を削除して成立したのが公羊経・穀梁経テキストであるとの体系的な仮説を提起している。

### 2. 研究の目的

本研究は、今本左伝テキストの左氏経文が原左氏伝から抽出・編作の手法に拠り制作されたとの仮説のもとに、左氏経文の作経メカニズムを体系的に明らかにしようとするものである。

### 3. 研究の方法

本研究では、今本左伝テキスト所収の左氏経文は次の四種類型文に例外なく分類される。①抽出文、②抽出的編作文、③編作文、④無伝の経文である。①と②は今本左伝に残存する原左氏伝テキストからの抽出及び抽出的編作を推定し得る経文で、③と④は残存する原左氏伝とは別の史料の介在を想定する必要のある経文である。本研究は左氏経の全経文をこの四種類型文に分類し、その分布状況を明らかにする。その上で、原左氏伝から左氏経が制作される作経メカニズムを解明してゆく。

### 4. 研究成果

本研究は、春秋経は春秋左氏経が原型で、その左氏経は、解経と凡例等以外の史伝文として今本左伝に残存する原左氏伝テキストから、抽出・編作の手法に拠り成立したものであるとの仮説を提示する。そこで、全春秋左氏経文を、①抽出文、②抽出的編作文、③編作文、④無伝の経文という四種類型文に分類して検討し、その分布結果からこの仮説の有効性を論証した。またこの考察を通して原

左氏伝から左氏経が制作される際の作経の原則を明らかにした。

ここにいう①抽出文とは、原春秋左氏伝文（今本左伝から解経と凡例等以外の史伝文のテキスト）の「記事文+解説文」という歴史記述文から「記事文」を抽出して記載したと見られる経文を謂う。なおこの原左氏伝の「解説文」は「解経」文ではない。「解経」文とは原左氏伝から左氏経を制作した際に経文の記述の解説のために付加されたと見られる伝文を謂う。②抽出的編作文とは、原左氏伝文から抽出しかつそれを独自の書法で編作して記載したと見られる経文を謂う。③編作文とは、原左氏伝文と内容的に関連するが、原左氏伝に無い情報を記載し、別の史料によるか、創作による過程を経て記載されたと見られる経文を謂う。④無伝の経文とは、対応する伝文の無い経文を謂う。これには、i 原左氏伝文からの切り取り抽出に拠り今本左伝文には無くなった、ii 他史料の援用に拠る、iii 編作者の制作に拠る、の三つのケース（i は抽出の手法で、ii・iii は編作の手法）が想定される。

このうち①と②は「抽出」の方法を基本とするもので、経の事実に関する情報は全て原左氏伝文中に存する。一方③と④は主として「編作」の手法に拠り他史料の援用を想定する必要のあるものである。概括的にいえば①②は抽出系の手法に拠り、③④は④ i 以外は編作系の手法に拠る。

本研究の結果によると、春秋時代前半の隠・桓・莊・閔・僖・文公期の六代百十四年間に及ぶ全経文 795 条の四種類型文の分類状況は抽出系（①抽出文 23.9%と抽出的編作文 25.9%）が 49.8%、編作系（編作文 17.7%と無伝の経文 32.5%）が 50.2%となる。これは、筆者の「原左氏伝から春秋左氏経が抽出・編作の手法により制作された」との仮説を、傍証するに足る客観的論拠を提示するものと言える。

本研究の考察を通して明らかとなったことは以下の七点に要約される。

- 一、春秋経文は、四種類型文によってすべて合理的に分類し得る。
- 二、春秋経文は、抽出系と編作系の二つの手法によって成立し、抽出系はそれによって原左氏伝文からの左氏経の制作過程の復原と推定を可能とするもので、こ

の抽出系の経文の存在が、原左氏伝からの左氏経の抽出・編作という仮説を実証する客観的論拠となる。

三、春秋経文は、他史料の援用によっても制作されており、それを物語るのが編作系の存在である。その他史料とは、諸侯の策（列国史）や魯の宮廷資料や世卿の族譜等と見られ、これは『国語』等の伝世文献や竹帛や簡牘等の史料に及ぶものと推定される。これについては近年の出土資料及びその研究成果と対応させつつ探究してゆくことが望まれる。

四、春秋経文は原左氏伝から抽出・編作の手法により制作されたとの筆者の仮説は、編作系経文の援用した他史料の存在というミッシングリンクを内包するが、トータルな仮説としては、春秋経文の成立を合理的に説明し得るものであることが論証された。

五、原左氏伝の編纂原則と春秋経文の作経原則とは次の各四項目が大綱的原則として機能していることが確認された。

「原左氏伝」テキストの主たる編纂原則は以下の通り

I 魯の十二公の紀年を軸とする「踰年称元法」による編年。

II 列国の史記（周及び諸侯の策）の記事を春夏秋冬の四時に配列して編年する。

III 列国の史記から主として覇者及び諸侯・卿・大夫の「立德」「立功」「立言」の記事について記す。

IV 毀誉褒貶の評価の基軸は「礼」にある。

「左氏経」テキストの主たる作経原則は以下の通り

I 魯の十二公の紀年を軸とし、「踰年称元・正月即位法」を原則として編年。

II 「原左氏伝」の春夏秋冬の四時の配列による編年を踏襲し、さらに時と月の対応の一律化を徹底し、為に「原左氏伝」の「時。月。」を一部改変する。

III 「原左氏伝」から「天子の事」の原則のもとに抽出・編作の手法を基本とし、かつ時に他史料（魯の春秋）を始めとする諸侯の策や魯の宮廷記録や世卿の族譜等）をも援用しつつ、作経する。

IV 毀誉褒貶の評価の基軸は「礼」を踏まえた「名」の筆法にある。

六、同じく作経原則の基礎をなす問題として、原左氏伝では踰年称元・当年即位法であり、春秋左氏経では踰年称元・正月即位法であることが、本研究によって明らかとなった。これは原左氏伝→春秋左氏経という時系列の不可逆性を明証するもので、筆者の仮説に基盤的な論拠を加えるものとなった。

七、原左氏伝と春秋左氏経との関係は、『資治通鑑』と『資治通鑑綱目』との関係に比定することができる。春秋経の〈高度の作為性〉の所以はここに窺い得る。

#### 5. 主な発表論文等（研究代表者には下線）

[雑誌論文] (計4件)

① 吉永慎二郎 「春秋左氏経」の作経メカニズムについての考察 (一) — 哀公期「左氏経」の「原左氏伝」からの抽出・編作挙例とその分析を中心に — 単著、査読無し『秋田大学教育文化学部研究紀要 人文・社会科学』第六十六集、34～44 頁、平成 23 年 3 月

② 吉永慎二郎 「春秋経（左氏経）の作経メカニズムについての考察 (二) — 昭公期「左氏経」の「原左氏伝」からの抽出・編作挙例とその分析より — 単著、査読無し『秋田大学教育文化学部研究紀要 人文・社会科学』第六十七集、68～80 頁、平成 24 年 3 月

③ 吉永慎二郎 「对于春秋経（左氏経）的作経機構考察 (三) — 在定公期「左氏経」從「原左氏伝」抽出・編作的挙例和其分析 — 単著、査読有り、『経学與文学国際學術研討会議発表論文集』101～133 頁、平成 24 年 3 月

④ 吉永慎二郎 「春秋経（左氏経）の作経メカニズムについての考察 (四) — 文公期「左氏経」の「原左氏伝」からの抽出・編作挙例とその分析より — 単著、査読無し、『秋田大学教育文化学部研究紀要 人文・社会科学』第六十八集、132～146 頁、平成 25 年 3 月

[学会発表] (計5件)

① 吉永慎二郎 「春秋経の成立メカニズムについて— 哀公期春秋左氏経・伝の分析を中心に —」(秋田中国学会第 151 回例会、於秋田大学総合研究棟 2 階講義室、平成 22 年 11 月 27 日)

② 吉永慎二郎 「春秋左氏伝の書法と左氏経文の作経メカニズムについて」(阪神中哲談話会、於茨木市福祉文化会館、平成 23 年 3 月)

月 26 日)

③吉永慎二郎「春秋経（左氏経）の作経メカニズムとその成立の構図について」（日本中国学会第六十三回大会、於九州大学箱崎キャンパス旧工学部本館、平成 23 年 10 月 8 日）

④吉永慎二郎「对于春秋経（左氏経）的作経機構考察（三）—在定公期「左氏経」從「原左氏伝」抽出・編作的挙例和其分析—」（台湾大学経学與文学国際學術研討会、台湾大学文学院講堂、平成 24 年 3 月 16 日）

⑤吉永慎二郎「台湾の経学与春秋学」（秋田中国学会第 154 回例会、於秋田大学総合研究棟 2 階講義室、平成 24 年 5 月 19 日）

〔図書〕（計 1 件）

①吉永慎二郎『春秋左氏経文の原春秋左氏伝からの抽出・編作とその作経メカニズムの研究 —春秋二百四十四年全左氏経文の抽出・編作挙例と左伝文（上）—』単著（私家版、秋田活版印刷印行、全 124 頁、平成 25 年 3 月）

〔その他〕 特記事項なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉永 慎二郎 (YOSHINAGA SHINJIRO)

秋田大学・教育文化学部・教授

研究者番号：70240330

以上